第74回国民体育大会「(愛称)いきいき茨城ゆめ国体」は、「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」のスローガンのもと、国内最大のスポーツの祭典として、また、天皇陛下御即位記念として、令和となった新たな年の9月28日から10月8日まで、11日間にわたり開催された。会期前に行われた競技やデモンストレーションスポーツ等を含め、県内全44市町村が舞台となり、施設整備や競技力の向上をはじめ各種ボランティア・おもてなし事業など、茨城県民の総力をもって臨んだこの一大イベントの成果は、45年ぶり2度目の天皇杯(男女総合優勝)・皇后杯(女子総合優勝)の両賜杯獲得という輝かしいものとなった。盛大で華やかに執り行われた式典と相まって、茨城県民の底力を全国に見せつけたと言えるのではないだろうか。

笠松運動公園陸上競技場で行われた総合開会式では、満員の観客が見つめる中、様々な演技が披露され、本県の魅力をアピールした。式典前演技「いばらき風土記2019 ～ここから、未来がひろがる～」のクライマックスで、フィールドを埋め尽くした総勢約2千人の演者が色とりどりの衣装で晴れやかに舞うと、会場は一体感に包まれた。入場行進の殿(しんがり)をつとめる本県大選手団が笑顔で小旗を振れば、地元小中学生による都道府県応援団がスタンドから熱いエールを送る。「頑張れ！」本県の未来を担う子どもたちが、スティックバルーンを力いっぱい打ち鳴らした。